地震調査研究から防災対応までの流れと今後の課題　俯瞰図

資料　新総レ8－（4）

観測網

地震・津波

・陸域の基盤観測網
・海底地震・津波観測網（S-net、DONET1、2）
南海トラフ西、日本海　等

地殻変動

・GEONET
・海底地殻変動
空間能、時間能の向上

調査

活断層調査

・主要活断層　等
データ不足、『見えない』断層、連動性の評価手法　等

海域調査

・南海トラフPJ、日本海PJ

津波履歴調査、歴史史料調査

精度の向上、理学との連携

データ公開

・基盤観測網のリアルタイム公開
個別研究で取得されたデータや研究成果の収集・保存・公開、工学分野でも利用しやすい公開手法の改善

即時予測

・緊急地震速報の高度化　精度向上
・津波警報等の高度化　精度向上
津波即時予測の全国展開

地震の評価

・長期評価
・地震の評価
観測データの取り込み手法、連動性

ハザードマップ

・全国地震動予測地図
被害と結びつけたマップ、長周期地震動
・津波高　精度向上、遡上予測

シミュレーション

ある程度の規模の地震は過去のデータを用いて実施
・精度向上、観測データの取り込み手法
・M９クラスの地震・津波（連動性）

地盤情報の整理

範囲の拡大、精度の向上
半自動的に収集される仕組み

構造物の応答性の研究

工学分野、民間との更なる連携促進

災害情報等の発信

災害現場での対応

被害想定

各種防災計画

建造物の耐震化

法令等による規制

防災対応の担い手が活用しやすい形、相互対話

成果の活用方策

防災対応の担い手が活用しやすい形、相互対話

相互連携の促進、民間等が活用しやすい研究成果の公開のあり方

○○○…主な課題

…地震本部が（一部）実施しているもの

…他機関が実施しているもの

…（ある程度）連携できている

…連携に課題